

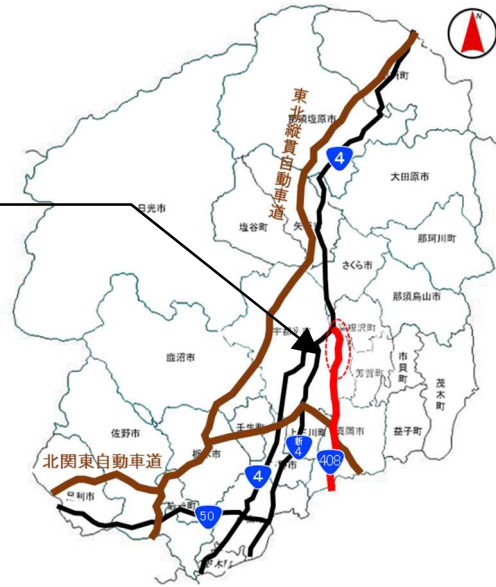
道路事業の再評価概要書

道 路 事 業 の 再 評 価 概 要 書		番 号	1
		事業主体	栃 木 県
事業名	快適で安全な道づくり事業	事業所管課	県土整備部 道路整備課
路線・河川名	一般国道 408号	事業箇所名	宇都宮市、高根沢町 宇都宮高根沢バイパス
事業区間	宇都宮市野高谷町～高根沢町宝積寺	事業延長	6,600m
H21年度事業化		H22年度用地着手	
事業期間	(R6) H21年度～R9年度	事業進捗状況	基準年次：【令和2年度末時点】 進捗率
[うち用地補償費]	[30.2 (30.2) 億円]	[うち用地補償費]	[29.8 億円] [99%]
全体事業費	283.0 (176.0) 億円	既投資事業費	150.3 億円 53%
事業概要			
<p>一般国道408号宇都宮高根沢バイパスは、常磐自動車道谷和原I.Cを起点に、宇都宮東部地域を經由し、東北縦貫自動車道矢板I.Cへ至る地域高規格道路「常総・宇都宮東部連絡道路」の一部を構成しており、本県経済を牽引する鬼怒川左岸工業団地群から、北関東自動車道真岡I.Cへのアクセス強化を図るなど産業活動を支える重要な道路である。</p> <p>当該バイパスについては、道路ネットワークの構築を優先することとし、平成29年2月に1期工区の宇都宮市板戸町地内から県道宇都宮那須烏山線（鷲ノ谷交差点）までの約L=2.7kmを、令和元年5月には2期工区の県道宇都宮向田線（野高谷町交差点）から板戸町地内までの約L=2.6kmについて暫定2車線で供用を図ったところである。</p> <p>現在は、未供用区間（3期工区の県道宇都宮那須烏山線鷲ノ谷交差点から一般国道4号までの約L=1.3km）の整備に加え、暫定2車線供用区間の4車線化、主要交差点の立体化を推進している。</p>			
事業を巡る社会経済情勢の急激な変化、技術革新、事業計画の大幅な変更等			
<ul style="list-style-type: none"> ・JR協議に伴う施工方法等の変更、地質調査結果に基づく地盤改良工の追加等による事業費増 176億円→283億円（107億円増） ・JR跨線橋の架設時期変更による事業期間の延伸 令和6年度→令和9年度 			
事業の投資効果			
1 費用対効果分析結果		【総便益 (B)】	【総費用 (C)】
(1) 事業全体 B/C= 1.5		408 億円	275 億円
(2) 残事業 B/C= 2.2		241 億円	112 億円
2 事業の整備効果等			
<ul style="list-style-type: none"> ・北関東自動車道真岡I.Cや東北縦貫自動車道矢板I.Cへのアクセス強化 ・鬼怒川左岸地域の産業支援 ・渋滞緩和による交通の円滑化 ・現道交通のバイパスへの転換による交通事故の減少 			
事業の進捗状況等			
1 事業の進捗状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・1期工区：平成29年2月に開通（暫定2車線） ・2期工区：令和元年5月に開通（暫定2車線） 			
2 今後の事業進捗の見込み			
<ul style="list-style-type: none"> ・1期工区(2.7km)及び2期工区（野高谷立体含む）(2.6km)：令和5年度完了予定（4車線） ・2期工区テクノ街道立体：令和8年度完了予定 ・3期工区(1.3km)：令和9年度に開通予定（4車線） 			
コスト縮減等			
1 コスト縮減方策			
<ul style="list-style-type: none"> ・将来的な維持管理費を考慮し、橋梁部において合成床版や耐候性鋼材(JR跨線橋)を採用することでコスト縮減に努める。 ・工区内発生土を土質改良し、盛土に使用することで、資源の有効活用に努める。 			
2 代替案立案等の可能性			
<ul style="list-style-type: none"> ・1、2期工区については暫定2車線で供用済みであり、3期工区においても既に大部分の用地を取得済みであることから、代替案立案は困難 			
事業の対応方針(案)		本計画で事業を継続する。	

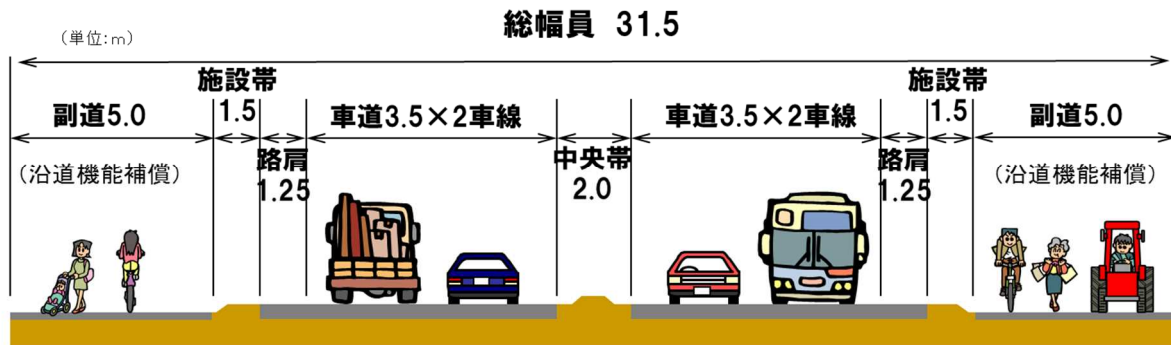
事業箇所（位置図・概要図）

位置図

一般国道408号 宇都宮高根沢バイパス



標準横断面図



概要図

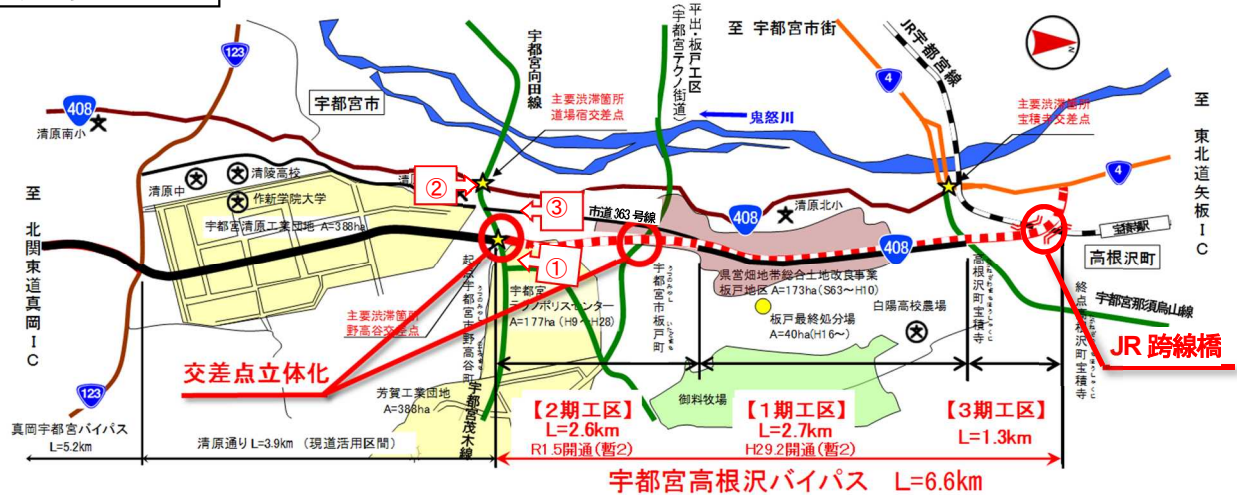




写真 1 : 現道の状況 (野高谷町交差点南側)



写真 2 : 現道の状況 (道場宿交差点北側)



写真 3 : 周辺道路の状況 (市道 363 号線)